

## アジアの鉄人

みなさんは、陸上競技の十種競技（decathlon）を知っていますか。

十種競技は 2 日間で十種目の競技をしなければなりません。十種目の記録を点にして、点数の合計で順位が決まります。



（上の絵の左から 1 日目：100m 走、走幅跳、砲丸投、走高跳、400m 走）

（下の絵の左から 2 日目：110m ハードル、円盤投げ、棒高跳、やり投げ、1500m 走）

実は、私は一度だけ十種競技をしたことがあります。大学 3 年生の秋でした。記録あまりよくありませんでした。ただ、十種競技が終わった次の日、歩くと体が痛くて、階段をのぼることもできなかったことをよく覚えています。

どうして私が十種競技をしたかという、それは、高校生のときの陸上部の先生、岩井寿史（いわいひさし）先生が十種競技のアジアチャンピオンだったからです。ただのチャンピオンではなく、「アジアの鉄人」というニックネームがありました。なぜ「アジアの鉄人」と呼ばれたのでしょうか。

1978 年 12 月 17 日・18 日にタイのバンコクで陸上競技のアジア大会が行われました。この大会に出場した岩井寿史選手は、十種競技の 2 日目、棒高跳の着地に失敗して、右足のかかとを骨折してしまいました。普通の人なら、ここで十種

競技をやめるでしょう。歩くこともできなかつたかもしれません。しかし、岩井選手は痛み止めの注射を打って競技を続けました。やりを投げ、1500m を走り切りました。記録は 7003 点で優勝しました。それから岩井選手は「アジアの鉄人」と呼ばれるようになりました。

その後、「アジアの鉄人」は高校の体育の先生になりました。俳優のようなイケメンで、ちょっと怖い先生でした。高校生のとき、私は陸上部に入りました。そこで岩井先生と出会いました。私は特別、足が速いわけではありませんでした。岩井先生にほめられたことも怒られたこともありませんでした。

高校を卒業して、大学3年生の冬、岩井先生に会いました。私の十種競技の記録を見せたら、嬉しそうな顔をしていたのを覚えています。その後、なかなか会う機会はありませんでした。そして 2020 年 10 月 13 日に「アジアの鉄人」はこの世を去りました。65 歳でした。

(797 字)

(2020.4 Written by Ryozo SASAKI)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.